



市長対談

京都大学・小林正美教授

西条市実践防災計画は、京都大学の小林正美教授、ラジブ・ショウ助教の指導を受け、3年計画で昨年
からスタートしました。

去る6月1日には小林教授が来西し、「防災計画の
流れ、成果、今後の展開」というテーマで、市長との
対談が行われました。平成17年度の取り組みを振り返
りながら、今後の西条市実践防災計画の展開について
語られた対談の内容をご紹介します。

西条市実践防災計画の展開

市長 昨年度は市内全域で
市民への説明会を実施すると
ともに、山際地区では図上訓
練を実施したわけですが、こ
の取り組みと、今後の事業の
進め方などについて、お伺い
いたします。

小林 西条市の取り組みが
従来他所でやっている防災と
大きく違うところから説明し
ます。それは「市民に参加し

てもらっている」そして「結
果として役所と地域の連絡網
が出来上がる」ということで
す。これは要領よく作るの
ではなく、市民と一緒になっ
て作り上げていくというこ
とです。

市民が自分でどうしたら
いいのかということを考えな
がら、取り組むことが大事
です。

市長 今回やり始めたこと

は、役所も市民も関係なく、
取り組む人の姿勢が大事で
すね。図上訓練を実施したわ
けですが、この図面作成を提
案された理由を教えてください。

小林 図上訓練の地図には
地域の住民の名前や自分た
ちの情報など、自ら書き入れ
ます。市が情報を開示した、
地域の危険情報を参考にしな
がら、誰がどこにいるか、ど
こ

に集まるべきかを決めてい
たわけです。これはやはり、
地域の人が一緒になってやる
必要があります。行政はその
場に一緒に参加し、決めた約
束を持ち帰り、みんなで決
確認したことを、結果として
もらうわけです。

西条市では一昨年の台風災
害によって、それまで静かに
生活してきた山際の地域で大
変なことが起こったわけです
が、それは「山から全部教え
てもらった」とも言えるわけ
です。これだけの土砂崩れ、
土石流、流木による被害、そ
して現実的には、地震や津波
が来る可能性も高い状況であ
りますから、対策としては、
やらないといけないことがた
くさんあります。

西条市の場合には東南海・南
海地震のほか、中央構造線が
町のすぐ近くを通っていて、
震度6強の直下型地震が予想
されます。この2種類の地震
が危険のベースとなります。

この地震と津波、さらに土
砂災害などが重なる危険もあ
ります。

市長 「何で防災をやるの
か」という話は、全員が同じ
場で同じ言葉で聞いておくと
いうことがとても大切です。

防災専用電話 運用開始

災害時の通報は

TEL 0897-5211400

市では地震や台風など自
然災害時の通報を受ける、
防災専用電話を7月10日か
ら運用しています。

災害発生時に、市の水防
本部や災害対策本部へ通報
を行う際は、防災専用電話
をご利用ください。

市民による防災マップ

災害図上訓練の

結果図面を展示します

今回、平成17年度に実施
した災害図上訓練の結果図
面と、市の実践防災の取り
組みについて展示します。

訓練には多くの地元の方
に出席いただき、地域の実
状と特性をとらえた結果図
面が完成しました。

ぜひ、ご覧ください。

■展示場所

○飯岡公民館（飯岡217
112）

○石根公民館（小松町大頭
甲1045-1）

■展示期間 ※月曜日休館
7月28日（金）8月27日（日）